

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、2週間以内に必ずご提出ください)

2025 年 10 月 25 日	
所属部局・学年	野生動物研究センター 修士1年
氏名	金 紗羅

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
熊本県宇城市	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
動物福祉実習	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
2025 年 10 月 20 日 ~ 2025 年 10 月 23 日 (4日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学野生動物研究センター平田聡教授, 熊本サングチュアリ	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
●実習の目的・内容 飼育動物は、飼育環境による行動の制限などから、ストレスを抱え異常行動をすることがある。したがって、動物が本来の様々な活動をおこなえるような環境を整備することで、ストレスを低減する取り組みが重要である。 熊本サングチュアリでは、飼育しているボノボやチンパンジーに、消防ホースや塩ビ管などに食べ物を入れて与えるといったエンリッチメントや新しい刺激を与えるためのスケジュールが組まれている(写真1)。また、複数個体と同じ空間にいて、社会的なインタラクションできるようにしている。本実習では、ボノボとチンパンジーのエンリッチメントを体験した。 スケジュール 10/20 施設案内 10/21 採食エンリッチメント, エンリッチメント装置作成, ボノボへエンリッチメント装置設置, 観察 10/22 採食エンリッチメント, 健康診断の見学, チンパンジーへのエンリッチメント装置設置, 観察 10/23 片付け ●チンパンジーの採食エンリッチメント ミカンやナス, 玉ねぎなどの野菜を色々な場所に隠した。チンパンジーが食べ物を探して動き回れるように、また、特定の個体が独占して食べないようにするべくいろいろな場所に隠した。2日目は、前日の観察から人間が隠す制限状低い位置ばかりに偏ってしまったため、すこし上の位置にも隠してみたり、餌を見つけても簡単に取れないような場所に隠したりと工夫した(写真2)。 屋内の飼育場から餌を隠した飼育スペースへ放たれて餌を見つけるまでがとても速く、すべての餌を6個体のチンパンジーが食べける数分であった。 ●ボノボとチンパンジーのエンリッチメント比較 我々は、竹の節を利用して、大豆や落花生を中に入れてボノボやチンパンジーに道具を使用して中の豆を食べてもらう装置を作成した。1つは比較的細い竹を切り、一節分の空間に直径1cm程度の穴を複数あけて大豆を入れた。大豆だけでは簡単に振って出すことができると考え、粘性のあるはちみつを加えて難易度を上げることにした(写真3)。もう一つの装置は、比較的太い竹を使用し、節を用いて2個の空間を	



写真1 採食エンリッチメントの例



写真2 採食エンリッチメントをする様子

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、2週間以内に必ずご提出ください)

作り、上部の節に落花生が入る程度の穴、空間を区切る役割をする節にも同程度の穴をあけ、直接手でつかむことができないように、棒などを使用して下の空間へ落花生を落として食べれる装置を作成した(写真4)。

大豆と蜂蜜を入れた竹は振って落ちてきた大豆を食べることに成功していた。また、歯で何度も破壊して割って食べることもできていた。大きい装置の方は、両者とも、設置した竹を破壊したり、フェンスからとったりして食べるが多かった。ボノボやチンパンジーが自発的に道具を使用して食べることはほとんどなかったが、こちらから道具になる枝を差し出すと、チンパンジーは道具を利用して落花生を食べることができていた。

ボノボのエンリッチメントを開始してから1時間観察したが、装置を破壊しても装置自体への興味が薄れることなく、遊び続けていた。チンパンジーでは、雨が降っていたため、濡れるのを嫌って奥に戻ってしまう個体もいた。



写真3 大豆と蜂蜜を入れた竹



写真4 道具の利用を想定して設置した竹

●チンパンジーの健康診断の見学

チンパンジーの健康診断を見学した。今回見学した個体は、麻酔下でもかなり大きな声を出していてとても驚いた。麻酔が効いているため動きはほとんどなく、4人のスタッフが心拍やエコー、血液採などを行っていた。この個体は最近咳がひどかったため、喉や鼻の様子も診ていた。

●まとめ・感想

ボノボもチンパンジーも平田先生やスタッフの方、なじみがない我々の反応をよく見ていて、物を投げたり、水を飛ばしたりしていた。個体によって反応や食べ方が違って面白かった。人間と同じで食の好みがあるのか、与えられた餌の食べる順番が異なっていたり、食べないものを投げたりしていた。隠した餌は一貫してミカンが人気で、共通の好みと個体ごとの好みの違いが気になった。

採食エンリッチメントでは、餌を隠すときに見つかりにくそうな場所に隠したつもりであったが、簡単に見つけられて少し悔しかった。竹を用いて作ったものは、最初にボノボで観察できたので、2日目のチンパンジーのときにより道具を使用してもらえるように、設置時に頑丈にしたり、餌がはいっていることをわかりやすく見えるようにしたりと工夫できた。一方で、その工夫でも簡単にこわしてしまうチンパンジーの力の強さに驚いた。

※この実習報告書は提出前に担当教員（引率教員がいる実習は引率教員が、いない場合は指導教員）のチェックを受けてください。

6. その他（特記事項など）

本実習は、PWSよりご支援頂きました。また、実習の受け入れ、実習中のサポートをしていただきました熊本サンクチュアリのスタッフの皆様、実習の引率をしてくださった平田先生に深く感謝申し上げます。